

第二部隊行動の概要

昭和十八年以降兵團行動の主要ナルモノヲ略述ス

昭和十八年度

六月北支天津附近ノ警備間

師團ノ編制改正ヲ實施セシメ師團搜索隊現地

ニ於テ復員解散ス

八月天津附近ヨリ滿洲國錦縣、阜新、營口附近ニ移駐

ス

本移駐ノ時期的條件不良ニテ兵員ノ給養休養

ニ悪寒作ヲ及ホシ離隊逃亡兵ト榮養失調症トヲ

發生セシム

十月補充兵(國民兵、再徵集者)約二千名到着其過

半数ガ結核性疾患ノ既往アリ其ノ年齢ト共ニ体

力ノ劣弱ニ契驚ス

昭和十九年度

一月 前記補充兵、到着ニ依リ、四年次兵内地ニ歸
還ス之ニ依リ、兵員中、戦力的基幹ヲ失フ

一月 五月初年兵東京師團ニ入營同下旬現地ニ到着
一月 中旬軍醫部長大坪美登軍醫大佐南方軍ニ
轉任シ、缺員トナル

一月 下旬歩動準備ニ着手ス然レトモ、作戦方面嚴密
ニ附サレ全般ニ過重裝備トナル

二月 中旬新歩動準備、為兵團、缺員充足ヲ實施セ
ラレ在滿各兵團ヨリ約二千名、補充員到着ス

本兵員ハ多ク昭和十六年度關東軍特別演習時
ノ應召者ニシテ為兵團兵員中、最古參者トナリ
兵ノ團結ヲ混乱ス

二月 作戰主任參謀移動アリテ新任少佐參謀着任

(續前頁)

三月 參謀長少將ニ進級、後方主任參謀中佐ニ進級

軍醫部長代理軍醫少佐ニ進級

三月 上旬在阜新支那駐屯步兵第二聯隊ニ感冒様患者發生累計六五名ニ及フ、患者ハ全テ数日ニシテ輕快中旬ニハ終熄ス(入院ナレ)

同時頃ヨリ機密軍隊輸送開始セラレタル所中旬突然山海關ニ於テ停車ヲ命セラレ機密輸送ヲ混乱ス其ノ原因前項感冒様疾患ニアリタリ
兵團及ヒ關東軍司令部共ニ啞然トス

三月 下旬兵團主力北支河南省清化鎮附近ニ集結ヲ了ス同地ニ於ケル糧秣、宿營材料、不足、為兵員ノ体カヲ著シク支障ス又殊ニ同地方ハ前年度ノ大旱魃、為無住部、落多ク燃料等殆ト入手難シ得ス又特ニ爾後、全作戦ニ大影響ヲ來セル

ハ苦カノ入手全ク不成功ニ終リタルコトス為ニ僅ニ
牛馬車ヲ徵用シ其ノ缺ヲ補ヒタリ

四月 上旬中ニ概ネ整備ヲ完了セルモ防疫給水器
自動貨車未到着ニシテ行動發起前日十四日新
郷ニ自動貨車ノミ到着終ニ停戦迄防疫用器材
ヲ入手レ得サリキ

四月 五日新ニ編入セラレタル第二第四野戰病院天津ヨリ
清化鎮ニ到着ス高臨時防疫給水業務要員ハ
關東軍ヨリ差出サレ現地ニ到着セルモ全ク既經驗
者ナク又自動貨車ノ運轉經驗アル者全ク召マレア
ラス兵團ノ行動發起ニ切迫ニ終ニ自動車要員ヲ
集合セルムヲ得サリキ為ニ防疫給水部ハ全ク
其ノ快速機能ヲ發揮シ得スレテ終レリ

四月 十日清化鎮ニ於テ部隊長會同實施セラレ漢口迄

(續前頁・五)

ノ行動ヲ示セサル、

四月十二日初メテ衛生部先任將校會同ヲ認可實施セラシ
タレドモ十四日ヨリノ行動開始ニ僅クニ所要ノ指示ヲナシ
得タルノミ軍及ヒ他兵團トノ協同軍後方機關ノ
詳細ヲ承知シ得ザリシニ依ル即チ全テ防諜ノ犠牲ナリ
四月十四日迄ニ清化鎮ニ於テナシ得タル衛生業務ノ大部
ハ過剰ニ携行シタリタル醫務室用材料其ノ他ヲ各
隊ヨリ返納或ハ集積セシメ新郷ニ於テ上處理セシメ
得タルノミ然レトモ尚各隊ハ約三箇月分ノ衛生材
料及彈藥類ヲ携行シタリ
以テ兵員ハ著シキ過重裝備ノ狀況ニアリテ兵個人
ノ負擔量統計約四十五疋ニ及ヒアリ小官ノ記憶ニテ
誤リナケレハ當時ノ兵員平均体重ハ五二疋餘ナリナリ
而シテ兵員ノ大部ハ入營後二箇月餘ナル初年兵及補

充兵員ニシテ眞ニ既教育タル現役兵員ハ半数ニ滿タ
ス洵ニ片足軍靴、片足高下駄、如キ跛行的組成ニ
ルテ行動ヲ發起スルノ狀ニアリ各級幹部ノ苦心全テ
此處ニアリタリ。

四月十五日昨夜ヨリ行動ヲ發起シ本朝懷慶南方黃
河北岸ニ於テ陽渡河ヲ實施ス兵ノ志氣揚ラス

四月十八日迄ニ陽渡河點ヨリ反轉黃河渡河點ニ集結豫
定ナリシモ全行程約九〇料行軍日數二日半兵ハ始メ
テノ全裝備行軍ナリ、靴ハ新靴ナリ道路ハ自動車
道及夜雨ノ里道ナリ加ヘテ支那馬車アリ終ニ豫定
ノ如ク集結ニ得ステ十八日夜、黃河渡河ハ翌十九日
ニ延期セラレタリ然レトモ約二千ノ兵員ヲ北岸ニ殘
置追及セシムルノ狀トナレリ

四月二十日兵團主力ハ黃河渡河南下ス所ニテ兵團ノ任務

(續前頁・左)

陸軍

ハ河南省許昌鄧城迄道路補修ヲ行ヒツノ急行軍ナリ

尚兵團ハ本作戦間全ク通譯ト稱スヘキモノ無クシテ行動セリ爲ニ各隊ハ所命ノ宿營地點ヲ發見スルコト殆ト不可能ニシテ爲ニ右往左往シ兵ノ休養ヲ害セルコト多クナリ

五月一日許昌ニ於テ小戦鬪アリ

五月五日鄧城攻略京漢作戦間兵團ノ全兵力ヲ使用セ

シハ本戦鬪ナリ戦死傷約一五〇名

鄧城ヨリ約二〇〇ノ患者ヲ許昌ニ後送ス其ノ大部ハ

靴傷其他ノ落伍者ナリ

鄧城ヨリハ第十二軍兵站ト全テ離レ信陽ハ獨力突

破行軍トナル

患者ノ前送ハ車馬及輜重自動車中隊ノ一部ニ依ル

0015

尙兵團、鄜城通過後自動車輜重聯隊追及シ來リ
兵團ト行ヲ共ニスルコトナリタルモ終ニ之ヲ確山迄利
用スルヲ得サリキ

五月十一日確山迄發治安地區ニ入ル

五月十四日夜行軍間暴風雨ニ會シ長台關附近ニ於テ一
六六名、凍死死者ヲ生ス

五月十六日信陽ヨリ漢口ハ、列車輸送開始セラル且最終部
隊二十五日漢口着直ニ馱馬部隊ニ改編ス

漢口ニ於ケル馱馬部隊ハ、改編ハ兵團、行動上先發者
ヲ差込シ得サリト既往、輓馬ヲ馱馬トセル外殆ト馬
匹、増加ナカリシ爲兵團、諸資材携行能力ハ輓
馬編成時ノ三分ノ一ニ激減スル、止ハナキ實情ヲ呈シ爲
ニ兵器ヲ約三分ノ一衛生材料ヲ編成定數ノ半數ニ減
セシムル、結果トナレリ而シテ其、改編ニ使用セリ日

(續前頁)

數ハ最大六日最少一日ニテ兵ノ休養患者ノ整理モ行ヒ得ス為ニ約千五百人院患者ヲ信陽漢口武昌ニ殘スニ至レリ

五月 二十六日兵團長竹下中將 パラチフス疑ニテ武昌陸軍

病院ニ入院セラル

同日兵團主力歩兵三箇聯隊工兵一箇聯隊第一

野戰病院ハ師團司令部ト共ニ徒歩裝備ニテ自動

貨車ニ依リ崇陽ニ別進湘桂作戰ヲ發起ス

兵團ノ任務崇陽平江劉陽間ノ自動車道路開設

又シテモ道路作業ナリ

馱馬部隊及殘餘ハ徒歩ニシテ武昌迄發崇陽ニ追

及ヲ發起ス

平江附近ニ於テ馱馬部隊ノ兵團主力ニ追及セルハ約

一箇月ノ後ニシテ其ノ間馱載ニ未熟ナル輓馬ハ其ノ

捕取扱ノ未熟ト併行シテ終ニ其ノ三分ノ一ヲ損傷ス
ルニ至リ爲ニ又兵團ノ資材携行ハ更ニ半減スルニ至レリ
五月二十九日兵團主力崇陽發道路開發作業ヲ開始ス
雨季ニ際會セルト道路ハ水田中ニアリシ爲其ノ工事
殆ト全程架橋スルニ異ナラス未熟ナル歩兵部隊ノ困
難全ク涙スヘキモノアリ加ヘテ敵空軍ノ攻撃熾烈ト
ナル爲ニ通城附近ヨリハ自動貨車追及シ得サルニ
至ル

六月八日通城ヨリ前進道路工事續行、雨ト敵機トニ
支障セラレ前進シ得サル自動貨車ヲ殘シテ兵團主力
ハ田中及斷崖ニ自動車道ヲ開ク而シテ高駄馬追及
セサル爲糧秣器材ハ全テ臂力搬送ナリ數日ニシテ主
食調味品共ニ減シ又藥物ニ不足ヲ來タス
患者ハ野戰病院自隊ニ於テ搬送ヲ前進ス

(四六六・四七)

六月中旬新師團長落合少將南江橋ニ於テ司令部ヲ追及セル
六月十八日以降道路工事ト共ニ敵ト連日交戦ス

六月二十日馱馬部隊追及シ衛生隊又患者ヲ前送ニ協
カレ得ルニ至ル

六月二十四日平江ニ於テ追及セル馱馬ヲ掌握整理シ患
者高地位兵站病院患者ヲ療養所ニ殘シ更ニ糧秣ノ
交付ヲ受ケテ劉陽ニ向ヒテ前進ス

平江ヲ於テ自動貨車ノ進出困難ヲ認メラシ更ニ衡陽
攻略戦ノ展開ニ依リ自動貨車ハ南江橋附近ヨリ
宗陽長沙ニ返轉セラレテ兵團ハ道路構築作
業ノ在リテ解カレタリ約一箇月ノ努力全ク徒然力ニ
終リ加ヘテ兵員ノ望ミヲ囑セル衡陽モ今ハ及ヒ得サ
ルノ觀アリ而モ兵團ノ別方ニハ山及鹿兵團前進
シテ唯々追及ノ觀アリ

七月二十八日 劉陽著

劉陽ニ於テハ主食ヲ補給シ得タルノミニシテ次第ニ不足ス
又同地患者輸送隊ニ患者ヲ托ス

高兵團ハ軍靴、衛生材料、調味品ニ不足ヲ來タシ最
後ノ手段トシテ馱馬輜重ヲ長沙ニ迂回セシムルコトニ決
意シ劉陽ヨリ西下セシメ長沙ヨリ醴陵ニ前進同地ニ
於テ合セシムル如ク處置ス

七月 七日 醴陵附近ニ到着

劉陽出發以來連日交戦シアリテ患者ノ前送困難
ヲ要ス

醴陵ニ第四野戦病院ヲ衛生隊ト共ニ前進セシメ同
地ニ兵團野戦病院ヲ引継キ開設ス患者約三
〇〇名薬物ハ救急手術ニ堪フルノミ兵團ハ醴陵
東方萍郷トノ中間地區ニ於テ敵ト交戦之ヲ萍

(陸軍省・案 〇)

郷方向ニ壓迫ヲ續ク

七月下旬兵團ハ同地區ヨリ健兵團ト呼應シテ赤痢陵地區

ハ南下ヲ命セラル

尚長沙ニ迂回セシメタル馱馬輜重ハ兵團用材料ハ既ニ醴

陵ニ前送シアリトノ由ニ自隊ハ被服糧秣等ヲ入手セル

ノミヲ以テ追及セルモ當時醴陵ニハ約一箇大隊分ノ組合

セ衛生材料ヲ患者輸送小隊カ携行シテ之ヲ受領得

タルノミニシテ僅カニ手術用材料ヲ殘ス、程度ナリキ

醴陵ニハ步兵一箇大隊第四野戰病院ヲ殘シ更ニ之ニ

衛生隊ヲシテ約二五〇名ノ戰傷病者ヲ後送迂回セシメ

兵團ハ萬洋山系ニ突入ス

八月下旬湖南江西省境萬洋山系中ニ在リテ敵ト連日交

戦シツ險難ヲ突破シテ南下ヲ續ク當時地圖ハ全

ク其ノ用ヲナサヌ加フルニ調味料缺乏シ塩ヲキ數日ヲ過

スノ苦心ヲナシツアレハ衡陽ノ攻略既ニテリ爾後ノ進展
ヲ思ヒテ心セカルトモ意ノ如ク進マズ約七〇名ノ重傷
患者ヲ搬送シテ漸ク八月中旬茶陵北側ニ進歩シテ
湘桂作戰ニ一敗落ヲ附スルヲ得タリ

八月中旬前記主力ノ進歩ニ先立ち步兵第三聯隊第
一野戰病院ヲ茶陵ニ挺進先行セシメ山ノ兵團野
戰病院及健兵團患者ヲ療養所ヲ引継クト共ニ
同地ノ警備ニ任コシテ前記兵團ノ前進ヲ容易ナ
ラシム引継患者約二〇〇名

高衛生隊ハ萍鄉西側ヨリ醴陵ニ患者ヲ後送セル
後同地ヨリ直チニ南下シテ收縣ニ劣テ同地ニ待期シ
アリ直チニ患者ヲ療養所ヲ開設セシメラレタリ

九月上旬兵團主力ハ茶陵周辺ヲ掃討シアリシ所衡山
株州方面ニ敵ノ進歩アリ之ニ對シ步兵第三聯隊

(續前頁・末)

陸軍

ヲ急派シテ兵站線ヲ確保セシムト共ニ逐次涿田や安仁攸
縣地區ニ分駐シ警備態勢ニ移ル

尚下旬及之歩兵第一聯隊第二野戰病院等ヲ來陽ニ

前進セシム而シテ茶陵涿田安仁來陽衡陽間ノ自動車

道復旧工事ヲ實施ス其ノ間茶陵安仁ニ於テ數次ニ

百リ交戦終ニ陣地ニ據リテ敵ト相對峙スルニ至ル

當時ノ配備

師團司令部

涿田

臨時防疫給水部

山砲兵第二十七聯隊

衛生隊

歩兵第一聯隊

工兵第七聯隊

第二野戰病院

來陽

0023

| | |
|--|----|
| 步兵第三聯隊 | 攸縣 |
| 第四野戰病院 | 〃 |
| 輜重兵第三七聯隊 | 〃 |
| 步兵第三聯隊 | 茶陵 |
| 第一野戰病院 | 〃 |
| 尚右ニ先立テ衡山株州間ニ進出セル敵ノ掃蕩ニ任セル 步兵第二聯隊ハ十月上旬歩兵一箇大隊ヲ殘置シ テ攸縣ニ復歸ス又醴陵第四野戰病院ハ患者ヲ 岩本兵團野戰病院ニ引継ギ十月上旬攸縣ニ南 下衛生隊ト交代同地ニ野戰病院ヲ開設ス 十月ニ入り衛生材料約五十梱ヲ受領六月武昌發 發以來初メテ有カナル藥物ノ入手ナリ 十一月兵團長及各部長衡山ヲ統集團司令部ニ出頭 連絡ス | |

(傳令書・第15)

補充兵員約二千名到着

十月 參謀長及各部長 衡陽ヲ櫻_ニ集團ニ_{シテ}支頭連絡次期

作戰準備ニ着手ス

尚以上ノ間各隊ハ尚夏服アリ調味品以外總テ現地ニ

於テ調辨苦境ヲ極ム

十二月初年兵受領員漢口ニ向ヒ去發

次期作戰準備進捗逐次冬服ヲ入手ス

作戰用衛生材料約_五箱到著

患者ヲ攸縣ヨリ衡山ハ及來陽ヨリ衡陽ニ後送ス

尚茶陵攸縣ヨリ自動貨車ニテ衡陽ニ患者後送

實施セラル

又突破作戰間行動不堪ト認ムル弱体力兵員約六

口名ヲ茶陵攸縣安仁ニ殘置シ部隊ノ行動ヲ

輕快ナラシム之レ爾後ノ結果ヨリ見テ最モ良好

ナル成果ヲ得タリ

一月十日各隊ハ漢口迄發以來ノ夏被服ヲ冬被服ニ更
ヘ遂贛作戰ノ爲テ茶陵附近ニ集結ヲ開始シ司令
部又深田ヲ發發ス

一月十六日茶陵ニ於テ更ニ受領セル衛生材料約七〇梱ヲ各
隊ニ交付シ約二箇月分ノ所要材料整備ヲ完了シ本
日ヨリ永新ニ向ヒ發進

敵戰術機ノ劣撃アリテ夜行軍ヲ主トス

一月二十日蓮花ニ至ル再ヒ萬洋山系ニ入り敵ト交戦重ナル
次第ニ冷氣増加シ冷雨断續ス

一月二十九日永新ニ入り遂川ハ進攻態勢ヲ執ル

永新ヨリ遂川迄ハ地圖著シク現地ト相違シ山又山
道路ハ石段道ニシテ馬匹ノ前進障害セラル山中ノ
寒氣激シク樹氷ヲ見ル斯クノ如キ不良道ヲ曰本軍

(續前頁・終)

ノ通過ハ豫想セラリシ如ク鄰敵ノ大部隊ニ遭遇セス
小前哨戦ノミニテ遂川北方ニ空撃ス

一月 二十八日主力遂川附近ニ集結飛行場ヲ爆碎

二十九日贛縣攻略ノ為挺進部隊ヲ空發セシメ主力又二
月一日遂川發

二月 八日贛縣ニ入ル

遂贛攻略戦間ノ患者收容ハ永新、遂川ニ患者療養
所ヲ殘シテ收容據點トシ兵團ト同行セル兵站輜重隊依
リ之ヲ茶陵ニ後送スル如ク計畫シテアリタルモ遂川ヨリ
永新ヘノ患者搬送ハ困難ナルニ依リ永新ノミニ茶陵ニ後
送遂川ヨリハ贛縣ニ別送ス患者ノ發生ハ以外ニ少ク
概不順調ニ實施セラレタリ

贛縣ニ第四野戦病院ヲ開設セシメ收容ニ任セシム

部隊ハ遂川、贛縣、南安ニ互リ警備ヲ續行「岩本」

部隊ノ進歩ヲ待ツ

三月波集壘ノ隸下スリ岩本部隊ト交代歩兵第三聯隊
第四野戰病院ヲ贛縣ニ殘シテ上旬贛縣地區迄及
曲江ヲ經テ廣東省惠州附近ヘノ川進ヲ開始ス

三月下旬曲江ヨリ歩兵第三聯隊ヲ南安ニ及轉セシメラル
主カハ曲江ヨリ惠州ニ向ヒ五嶺山脈ヲ横断ス敵小部
隊ト交戦セルノミニテ四月中旬惠州附近ニ進歩

四月下旬惠州周辺ノ警備配置ニ就ク暖氣著シキモ尚
冬衣ヲ着用シテリ五月上旬之ヲ夏衣ニ更新シ得タリ

惠州附近ヲ警備シツ新任務ニ基ク作戰準備ヲ續行
セルニ五月上旬ニ至リ状況變化シ中支方面ヘノ及轉ヲ命
セラル

五月上旬兵團長各部長廣東波集團司令部ニ出頭
諸指示ヲ受ク

(録録)・(京)

惠州ニ於テ約二箇月分ノ作戰用諸材料ヲ精選受領

ス

五月二十日惠州出發再ヒ贛縣ヘ北上「三南」作戰ヲ開始ス

途中降雨浸水ノ為行動ヲ支障ササル

六月六日河源ニ入ル

六月十九日龍南出發再ヒ江西省内ヲ信豐、南康ヲ經テ

六月二十七日贛縣西方塘江墟附近ニ集結引續キ「江

西」作戰ヲ準備ス

本地ニ於テ衛生材料約四十梱受領北支方面ヘ轉進

ヲ示セサル

七月六日全兵カヲ統合シテ南昌附近ニ向フニ別進ヲ開始ス

十三日遂川、二十四日泰和

八月三日峽江六日新滸降雨ニ苦シメラル

八月十六日南昌西南治安地區ニ入り西山萬壽宮附近

ニ集結始メテ停戦ノ詔ヲ知ル
贛縣以降患者ハ全テ自隊ニ於テ送セリ
爾後南昌兵站病院ニ後送ス

(48000・7・10)

24

0030